

## どの子も輝く学級へ

特別支援教育の目指すところは「教育のユニバーサルデザイン化」です。発達障がいのある子どもも、その特性が理解され適切にサポートされることで、本来もっている多彩な能力が引き出されます。また、このことは彼らだけではなく、どの子にとってやさしい学級づくりの一歩でもあります。

その後の  
虎夫くんは



仲良く遊べる仲間もでき、周りにも虎夫くんの良さが理解され、得意なことでも活躍の場を得ることができました!!

その後の  
卷子さんは



クラス内でのコミュニケーションもスムーズになり、仲のよい友だちもできて充実した学校生活を送ることができました!!

## 虎の巻

# 職場で使える「虎の巻」& 暮らしで使える「虎の巻」

発達障がいのある人たちへの八つの支援ポイント

必読!

様々な人の助けを借りながらも成長し、青年への階段を上がっていく虎夫さんと卷子さん。しかし、思春期には思春期の、社会人には社会人の悩みが…。発達障がいのある人たちが職場や暮らしにおいてトラブルになりがちな“認識の違い”とその解決策となる支援ポイントを示した『職場で使える「虎の巻」』、『暮らしで使える「虎の巻」』も、ぜひご覧ください。



## この冊子をご利用になる方へ

この冊子の作成にあたっては、関係者で構成されたプロジェクトで度重なる議論を行うとともに、可能な限り、当事者の方の意見なども伺ってきました。この冊子が同様の悩みをもち苦しんでいる方々へ、少しでも「希望」を届けたいとの考えから、「グッドジョブ」として表現する最後のコマを“限りなくベスト”な結果として描くこととしました。

実際の現場においては、「チェンジ」として掲示したような解決方策が短期間でベストな結果を生み出すことは少なく、様々な状況改善の手立てと長い時間をかけた上で、ようやく少しだけ解決に近づく、といったケースが一般的です。

発達に凹凸のある子どもたちを「特別な子ども」として扱うのではなく、みんなそれぞれが違うということを受け止め、それぞれの特性に合わせたサポートが行われていくことで、どの子もいきいきと活動できるクラスへと成長していく、そんな一歩を踏み出してもらおうための一助として、この冊子が活用されることを期待しています。